

日清食品

#日本を、未病対策先進国へ “完全栄養食” にチャレンジ



▲トンカツも完全栄養食に！

日清食品は2021年、「#日本を、未病対策先進国へ」をキャッチフレーズとする新事業“完全栄養食”へのチャレンジを開始した。

同社が考える「完全栄養食」は、「見た目やおいしさそのままに、カロリーや塩分、糖質、脂質などがコントロールされ、必要な栄養素を全て満たす食」。カレーライス、トンカツ等々の定番メニューを“そのまま”完全栄養食化する点が特

長だ。

即席麺などの開発で培ってきた減塩してもおいしさを保つ技術や、油分、カロリーをカットしてもおいしさを保つ技術、味のエグみ、苦みをマスキングする技術、調理時の栄養素流出を防止する技術などを駆使して開発を進めていく。

近年、予防医学をベースとする食品が続々登場しているが、日常の定番メニューを完全栄養食に置き換えることで未病対策を進める、というアプローチは新たな視点。

安藤徳隆社長は「これまで、これといった完全栄養食が世界に存在しない理由は、食べ物に必須栄養素を詰め込んでしまうと、どうしても苦みとかエグみが出てしまい、おいしくない、食べられない、というのがあった。今回、日清食品は、あらゆる食事メニューを完全栄養食化し、しかも、おいしい完全栄養食の開発に成功した。だまっていればわからないレベルのおいしさまで実現させた」と胸を張る。企業、生活者ともにメリットのあるCSVとしても期待される。

明星食品

“明星らしさ”を磨き キラリ☆と光り輝かせる

▶「光り輝かないと明星食品ではない」と語る豊留社長



今年4月、社長に就任した豊留昭浩氏＝写真＝は「収益力強化」「独自性強化」「組織力強化」を経営方針に掲げ、日清食品グループの主要事業会社として、グループ環境戦略

の取り組みで歩調を合わせつつ、明星食品としての独自性を発揮させていく考えだ。

「明星食品という社名なので、光り輝かないと明星食品ではないと考えている」。就任後、豊留

社長がまず社員に語ったことが「明星らしさを磨き、キラリ☆と光り輝かせる」。目指すは同社のスローガン「おいしさ、キラリ☆」の実現。

豊留社長が座右の銘とする「不易流行」の実践に向け、「先人達の「既存の知」、現従業員の「新しい知」、そして豊留社長が日清食品、海外、菓子事業で経験してきた「多様な知」を掛け合わせることでイノベーションを起こし、新しい明星食品の歴史を作りたい」と意気込みを示す。

コロナ禍で即席麺の再評価が進んだが、アフターコロナを睨み「もっと美味しく、もっと便利に、もっと楽しく。ライフスタイルや価値観、お客さまのニーズが多様化するなか、お客さまの生活を見つめ、お客さまの気持ちに共感した商品を作り、共感していただけるようなことをしていきたい」との認識を示すとともに、「サステナビリティ企業を目指し、CSV経営を実行していく。特に環境、健康、働き方の分野に注力し、地球、地域社会、お客さま、お取引先さま、従業員との共生・共創を図っていきたい」考えだ。